



新たな結核の迅速検査を 13 カ国で導入、命を救う診断技術をコミュニティのそばへ

2026 年 6 月 16 日

ジュネーブ結核は、予防も治療も可能であるにもかかわらず、今なお世界で最も多くの命を奪う感染症であり、毎年 100 万人以上が命を落としています。結核終息に向けた最大の障壁の一つは、何百万もの人々がいまだに迅速かつ正確な診断を受けられない環境にあることです。この格差を埋めるため、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）が主導する、アーリーアダプター（早期導入国）・イニシアチブのもと、13 カ国が、結核診断向けとしては初となるニア・ポイント・オブ・ケア（NPOC）分子診断検査を保健施設へ導入する準備を進めています。

チルドレンズ・インベストメント・ファンド財団（CIFF）の支援を受け、オーラム研究所（Aurum Institute）が現地で実施を担うこのイニシアチブにより、約 300 万回分の迅速かつ高精度な結核検査が、これまで十分な検査を受けられなかった人々や地域へ提供されます。対象国は、バングラデシュ、ベナン、カメルーン、エチオピア、インドネシア、ケニア、ナイジェリア、ペルー、フィリピン、南アフリカ、ウガンダ、ベトナム、ザンビアです。

2024 年には、世界で推定 1080 万人が結核を発症しました。しかし、そのうち何百万もの人々は診断されていなかったか、あるいは報告されませんでした。こうした診断ギャップを埋めることは、患者の発見を早め、治療開始をより迅速にし、感染拡大を抑えるうえで非常に重要です。ニア・ポイント・オブ・ケア（NPOC）分子検査の導入は、各国がまさにそれを実現することを目的としています。

今回の導入開始の背景には、WHO が最近、肺結核の症状がある成人および青少年に対する診断法として、100 年以上の歴史を持つ顕微鏡検査に代わり、NPOC 分子検査について勧告を公表したことがあります。これらの検査は、多くの結核患者が最初に受診する初期診療（プライマリーケア）の現場で使用することができ、コミュニティレベルで迅速な診断を受けられる体制が十分に整っていないという、結核対策における最大の課題の解消につながります。

この新しい NPOC 検査は、1 時間以内に結果を得られるとともに、多くの分散型医療現場で長年唯一の診断法だった塗抹顕微鏡検査に比べ、格段に高い精度を実現します。小型で軽量、操作も簡単で、バッテリーでも稼働できるため、電力供給が不安定な診療所でも使用可能です。また、ラストマイル（医療アクセスが届きにくい地域）にある保健施設での利用にも非常に適しています。

この転換によって、症例発見コストの削減、診断機会の公平性の向上、そしてWHOが勧告する迅速診断への大幅なアクセス拡大が期待されています。塗抹顕微鏡検査に代えて、はるかに高精度な分子検査を導入することで、これまで見逃されていた、より多くの結核患者を発見できるようになります。より早期に診断することで、治療をより早く開始でき、より良い治療結果につながるほか、家族やコミュニティでの結核の感染拡大を抑えることができます。

「ベナンが、この新世代のニア・ポイント・オブ・ケア結核検査をいち早く導入する国の一つとなることを誇りに思います」と、ベナンのバンジャマン・ウンパティン保健大臣は述べます。「これは、遠隔地のコミュニティの人々を含め、誰もが質の高い結核医療サービスへのアクセスを実現するための、大きな前進です。迅速かつ正確な診断を医療の最前線により近い場所へ届けることで、より早く患者を見つけ、より迅速に治療を開始し、多くの命を救うことができます」

「今この局面で最も重要なのは、技術そのものだけではありません。結核患者が最初に医療を受けるその場所で、それを届けられるようになったことにも大きな意義があります」と、オーラム研究所の最高経営責任者（CEO）デイブ・クラーク教授は強調します。「これらの検査ツールの各国への本格導入を支援することで、私たちは社会全体に及ぶ大きなインパクトをもたらしています」

「ニア・ポイント・オブ・ケア分子検査は、各国の結核の発見と治療のあり方を大きく変え得るものです」と、グローバルファンドのピーター・サンズ事務局長は述べています。「正確な診断をコミュニティのより身近な場所に届けることで、より早期に患者を見つけ、感染拡大を抑えるとともに、長年にわたり結核対策の進展を妨げてきた診断ギャップを埋めることができます」

「この結核診断における革新は、結核医療へのさらなる投資を呼び起こさなければなりません」と、CIFIの事務局長、マイルズ・ケンプリー氏は訴えています。「あまりにも長い間、結核対策は慢性的な資金不足に苦しみ、それを優先課題としてきたドナーパートナーも限られてきました。今こそ、各国がこの取り組みを本格展開していくなかで、資金の提供者や慈善財団が各国の保健システムを支えるべき時です。これらの新しいツールは有効であり、費用対効果にも優れています。数え切れないほど多くの命を救うでしょう。最も支援を必要とする人々が迅速に診断を受け、より早く治療を開始できるようにすることは、私たちが成し得る最も価値ある投資の一つです」

これらの検査は現在、導入しやすい価格で利用可能であり、高品質な性能を維持しながら、分散型分子検査をより手頃なコストで実施できるようにしています。ここで重要なのは、NPOC検査がGeneXpertのような、より中央集約型の分子診断プラットフォームを補完するものであるという点です。これらのプラットフォームは、薬剤耐性結核の診断や、NPOC検査で陽性となった患者に対する追加検査においても、引き続き不可欠です。プライマリーケアの段階で検査を受ける人が増えるにつれ、薬剤耐性検査への需要も高まると見込まれています。

結核は今なお世界で最も多くの命を奪う感染症であり、毎年100万人以上が命を落としています。その予防、診断、治療における大きな進歩にもかかわらず、何百万

もの人々が依然として医療へのアクセスを阻む障壁に直面しています。迅速かつ正確な診断へのアクセスを広げることは、この格差を埋め、人々がより早く治療を開始し、地域社会での感染拡大を抑えるうえで、最も効果的な方法の一つです。

グローバルファンドは、結核対策向け国際資金の最大の提供機関として、今後 2~3 年以内に利用可能となる革新的な製品群も視野に入れながら、結核の高負担国と緊密に連携し、NPOC 分子検査の導入と規模の拡大を支援しています。グローバルファンドは CIFF と連携し、触媒的投資、技術支援、各国への無償資金の提供を通じて、これら 13 カ国における NPOC の導入と本格展開を支援しています。

NPOC 検査をいち早く導入している 13 カ国は、分散型かつ患者中心の結核医療への世界的な転換を先導する一翼を担っています。正確な診断を地域社会のより身近な場所へ届けることで、結核終息に向けた世界的な取り組みは新たな段階へ進もうとしているのです。

-終-

世界エイズ・結核・マラリア対策基金について

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）は、エイズ、結核、マラリアの流行を終息させ、全ての人に健康かつ安全で、より公平な未来を築くための世界的なパートナーシップです。年間最大 40 億米ドルの資金を調達し、最も影響が深刻な 100 カ国以上における、三大感染症との闘い、感染症を助長する不公平の克服、保健システムの強化、パンデミックへの備えに投資しています。世界のリーダー、コミュニティ、市民社会、ヘルスワーカー、民間セクターと連携し、最も効果的な方策を見出し、世界規模で展開しています。2002 年の設立以来、グローバルファンドのパートナーシップの支援により 7000 万の命が救われました。

詳細についてはウェブサイトをご覧ください：www.theglobalfund.org

X をフォロー <http://twitter.com/globalfund>

フェイスブックに参加 <http://www.facebook.com/theglobalfund>